

中期経営計画2024-2026

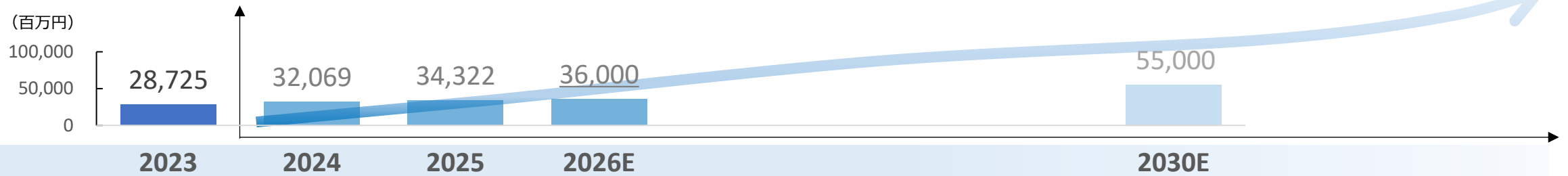
進捗状況



中期経営計画の位置づけ

2030年のビジョン実現に向けての第1フェーズとして、持続的成長の土台づくりのための3年間

クライメイト・ニュートラルな未来実現のため、空気処理技術のイノベーション・リーダーであり続ける。



2023年
時点

第1フェーズ

成長の土台づくり

中期経営計画：2024～2026年

- ・コア事業で市場シェア拡大
- ・成長事業の本格始動
- ・グループガバナンス強化

第2フェーズ

成長事業の安定化

中期経営計画：2027～2029年

- ・成長事業の安定収益化
- ・成長投資の成果刈り取り

第3フェーズ

ビジョンの実現

中期経営計画：2030～2032年

- ・成長産業への参画による持続可能な経営
- ・連結営業利益90億円超の常態化

営業利益率

15.0%

12%

17%以上

EBITDA率

18.1%

15%

21%以上

ROE

15.4%

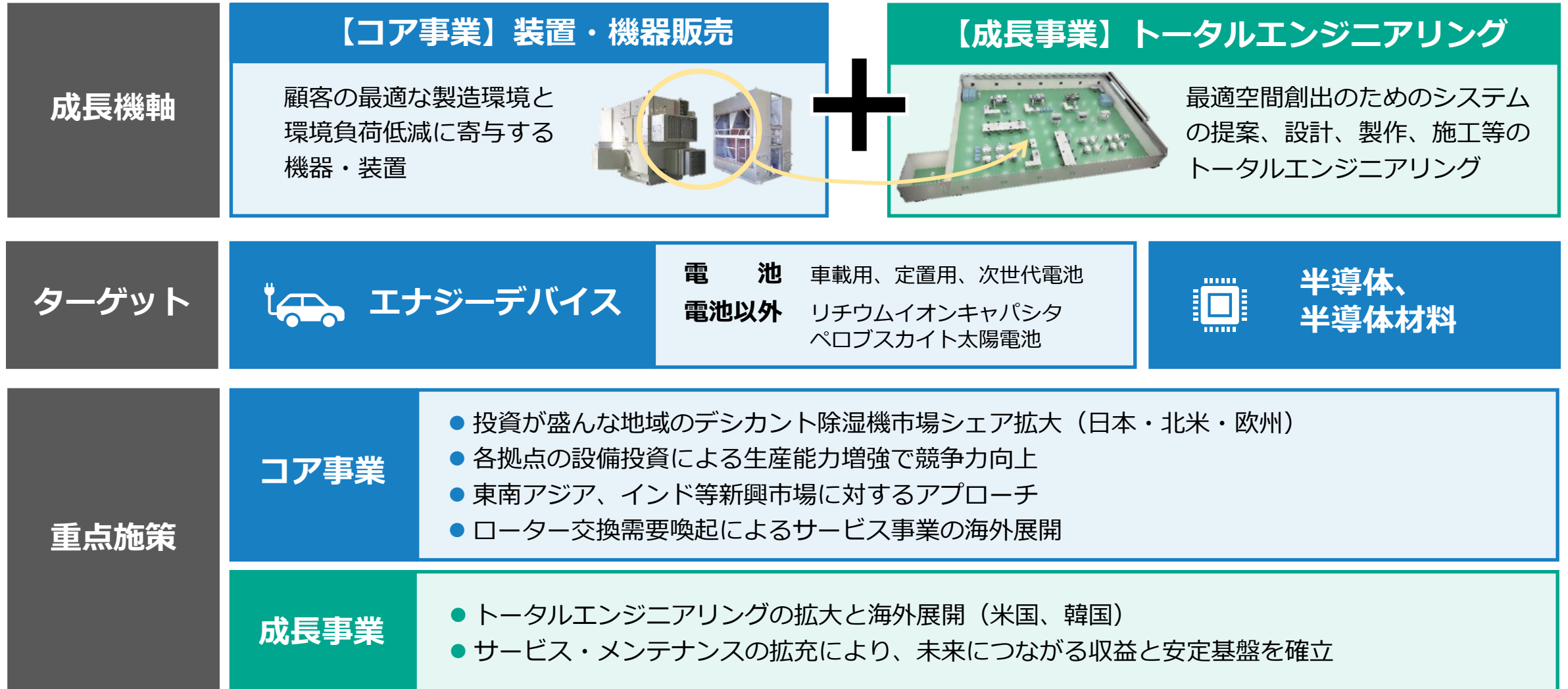
13%

18%以上

(2025/2/14 修正)

中期経営計画2024-2026 成長戦略

コア事業の欧米市場シェア拡大、及びトータルエンジニアリング拡大による継続的な利益成長








中期経営計画2024-2026 財務主要KPI

- ・2025年は、売上高は堅調に推移し、想定よりも粗利率が良かったこと、当初想定していた一部費用（人的資本投資）が未消化（2026年に計上見込み）となったこと等で、利益が想定を上回った。
- ・2026年は売上高が伸長することで売上総利益で増益を見込むものの、事業環境が厳しい中で粗利率は低下。加えて、成長のための人的資本投資やIT投資が増加することにより営業利益率は低下を見込む

	2024年実績	2025年実績	2026年見通し	2026年中計目標 (2025年修正)
売上高 (百万円)	32,069	34,322	36,050	36,000
営業利益率 (%)	12.6	13.2	11.2	12
EBITDA率 (%)	15.6	16.1	14.6	15
ROE (%)	11.8	11.1	11.8	13

当社の成長領域を取り巻く事業環境

	市場見通し	動 向
車載用電池		世界的なEV需要の鈍化により投資停滞も、日本の足元の投資は計画どおり進行中
車載用電池（次世代電池）		各国で全固体電池の開発が官民連携により加速
定置用蓄電池		自家消費や需給調整力としての需要が高まっている
電池以外のエナジーデバイス		【リチウムイオンキャパシタ】 データセンターや半導体工場向けで需要拡大 【ペロブスカイト太陽電池】 再生可能エネルギーの柱として、国の支援による開発・投資計画が発表
半導体、半導体材料		生成AIの普及を背景としたデータセンター投資の拡大が需要を強かに押し上げ

中期経営計画2024-2026の進捗状況

(2025年実績等アップデートは下線部)

1. コア事業：デシカント除湿機

日本での車載電池関連の案件は引き続き堅調に受注

ペロブスカイト太陽電池製造工場向け案件受注

- 国内ペロブスカイト太陽電池製造工場向けのデシカント除湿機を受注
(約4.0億円)

生産能力の向上

- 海外の組立工場を強化
米国新工場：2024年2月稼働、ポーランド工場拡張：2024年3月稼働
- 国内除湿ローター新工場建設
 - ・ 2024年10月着工、2025年10月竣工
 - ・ 2026年後半本格稼働予定
- 中国に板金加工を可能とする新工場を建設（内製化率の向上を図る）
 - ・ 2025年10月着工、2026年10月の竣工予定



除湿ローターに関する取り組み

- 高性能除湿ローターの市場への浸透
- 既存の除湿ローターの設計、構造の簡素化によるコストダウン
- 除湿ローター交換需要に向けた体制整備（中国、欧州）

2. コア事業：VOC濃縮装置

半導体ファウンドリ向け
VOC濃縮カセット(VOC除去) 案件は引き続き堅調に受注

VOC濃縮ローター交換を推進

- VOC濃縮ローターの交換件数：前年比：111.3%

生産能力の向上

- 中国に板金加工を可能とする新工場を建設（内製化率の向上を図る、同左）

新たな用途の開拓

- タイヤ製造工程からの排気処理（欧州）
- 半導体製造工程からの処理困難VOCの難処理
- インド及び東南アジア等での将来的な排ガス規制を見据えた取り組みに注力

VOC濃縮ローターに関する取り組み

- VOC濃縮ローターの設計、構造の簡素化によるコストダウン

中期経営計画2024-2026の進捗状況 (2025年実績等アップデートは下線部)

3. 成長事業：トータルエンジニアリング

国内トータルエンジニアリングの拡大

- ・国内キャパシタメーカーのハイブリッドスーパーキャパシタ*製造工場向けの工場の建築設計・設備設計および**コンストラクション・マネジメント***業務、工場内空調設備工事、ドライルーム工事、**充放電装置（エージング工程）***を受注（約48.3億円）
- ・国内大手自動車メーカーのEV用LiB製造工場向け不活性ガス環境**エンクロージャー**工事を受注（約8.2億円）

ハイブリッドスーパーキャパシタ：

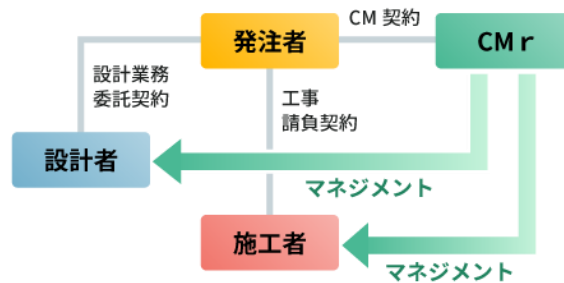
ハイブリッドスーパーキャパシタ（HSC）は、正極に電気二重層キャパシタ（EDLC）と負極にリチウムイオン電池の技術を組み合わせた、高性能な蓄電デバイス。高いエネルギー密度と出力密度が求められる様々な分野での応用が期待されている。

コンストラクション・マネジメント：

発注者の立場に立ったコンストラクション・マネジャーが、プロジェクトの目標や要求の達成を目指して、発注者の立場から一貫して建設プロジェクトをマネジメントする。

充放電装置（エージング工程）：

リチウムイオン電池やキャパシタなどのエネルギーデバイスの製造工程のうち、充電、放電を行って性能を評価するエージング工程で使用する装置。過熱した空気を製品へ熱負荷として均等に与える事で製品の物理的特性を安定させ、不良箇所のチェックを行える。



トータルエンジニアリングの海外展開

- ・インド大手車載電池メーカーの新工場向け**有機溶剤回収装置***を受注（約10.6億円）
- ・北米や欧州で機械設備工事の実績が豊富な韓国の**グンミョン・エンジ社**と資本提携、JV設立（2024年）
⇒海外でのドライルームやクリーンルームの施工に強みを持つグンミョン・エンジ社とのシナジー効果により、トータルエンジニアリング拡大を図る

今後の取り組み

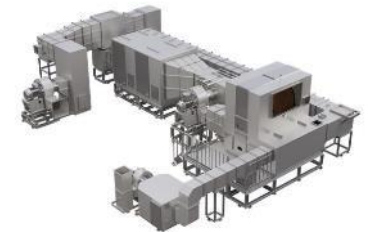
- ・欧州及びその他の地域での溶剤回収装置案件の獲得に注力
- ・グループ内の人的リソースを、成長事業に対して再配置

不活性ガス環境エンクロージャー：

製造工程において、製品の品質・安全性等を確保するため、生産装置等を囲って酸素などの反応性ガスを含む空気を窒素などの不活性ガスに置き換えるための局所的な囲い。

有機溶剤回収装置：

車載電池製造の塗工工程で発生する有機溶剤を冷却凝縮し、液体として回収するための装置。当社独自の循環システムにより排気の再利用が可能であり、従来の回収方式よりも省エネ化を実現できる。環境負荷低減を可能にする装置として採用されている。



BASC*発、蓄電池製造設備の産業横断型プロジェクト「Swiftfab」に参画

*BASC：一般社団法人 電池サプライチェーン協議会。当社は2023年に加盟し、電池のサプライチェーンの発展に向けて活動

当社を含むBASC加盟9社が蓄電池製造設備の新たな標準構築を目指す

「Swiftfab」の目的

経済産業省が定める蓄電池産業戦略の実現に向けた推進、および蓄電池の国内安定供給体制強化の一環として位置づけられ、BASC発の産業横断型の**蓄電池製造プラットフォーム構築**を目指す

「Swiftfab」の内容

建屋・設備・生産システムを統合した電池製造ラインを開発・展開し、**圧倒的短期間・低コストで高品質な製造拠点を構築可能とする仕組み**を提供

「Swiftfab」の特長

BASC加盟の電池製造に関わる多分野の企業9社が参加してそれぞれの強みを結集。これまでの“企業単独の努力”という枠を超え、**産業が力を合わせて全体最適で基盤を築き戦っていく世界初の試み**。その中でBASCは中立的な推進母体として参画し、共同知財の整備・技術標準化・国際展開方針を調整。本事業の成果は、今後BASC会員企業にも開放され、「共創型産業インフラ」として拡張していくことを予定

西部技研の役割

長年培った製造環境の空気の質をコントロールし維持する技術やエネルギーコントロールのノウハウを活かし、蓄電池製造環境の開発・供給を担当

BASC*発、蓄電池製造設備の産業横断型プロジェクト「Swiftfab」に参画

*BASC：一般社団法人 電池サプライチェーン協議会。当社は2023年に加盟し、電池のサプライチェーンの発展に向けて活動

事業名	Swiftfab事業
事業主体	SwiftfabEnergySystems株式会社（仮称）
設立時期	2026年4月（予定）
所在地	東京都港区（予定）
共同出資者	BASC会員企業9社
事業内容	蓄電池製造装置・ラインの開発・設計・販売・運用支援
想定応用	自動車用・定置用リチウムイオン電池／次世代電池製造
問い合わせ先	Swiftfab準備事務局 press@swiftfab.co.jp

事業を担う合併会社SwiftfabEnergySystems株式会社（仮称）の代表には当社の喜田 桂祐*が就任予定です。

*株式会社西部技研 上席執行役員 戦略担当兼ソリューション事業部長
株式会社西部技研DRエンジニアリング 代表取締役社長

新製品「C-SAVE Green」(2024年発売)の取り組み

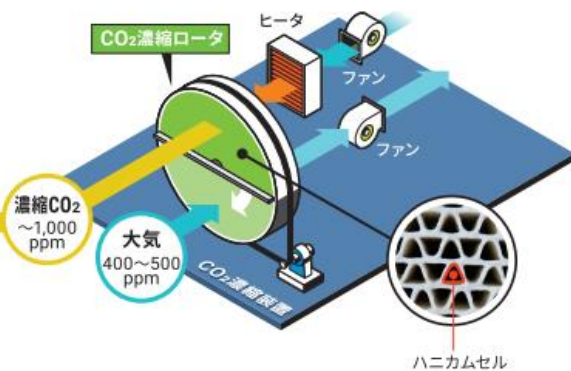
ハウス栽培向け
大気中二酸化炭素 (CO₂) 濃縮・供給装置

C SAVE
Green®



特長

- **収量増加** : 公的な農林業研究機関における高設いちご栽培で確認
- **環境配慮** : 化石燃料を使わず常温で安全かつクリーンなCO₂ガス供給
- **手間なし** : 原料は大気のため燃料補給やガス交換不要、カンタン設置



第50回発明大賞で東京都知事賞を受賞

公益財団法人 日本発明振興協会と日刊工業新聞社共催による第50回発明大賞(2025年)において東京都知事賞を受賞



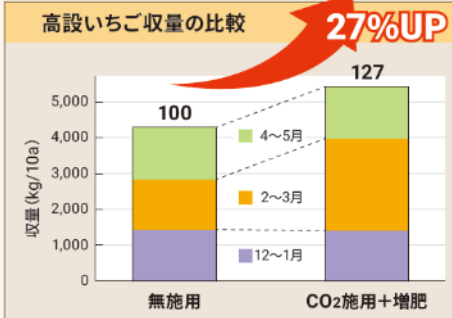
中計2024-2026期間中の取り組み

- 量産化に向けた取り組み
- コストダウンに向けた取り組み
- 海外展開のため
オランダWUR
(ワーヘニンゲン大学)
での実証試験開始



農業(グリーンハウス)向け新規事業

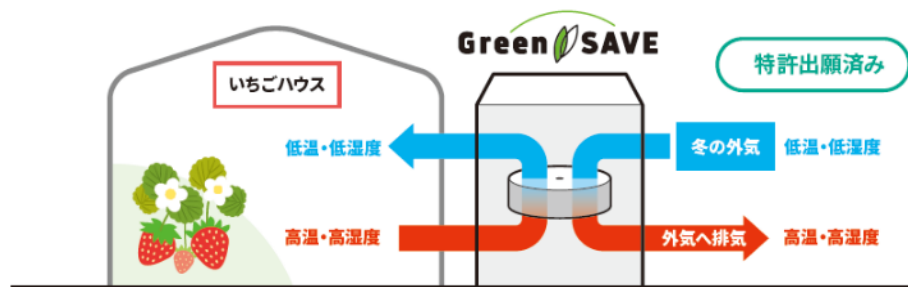
C-SAVE Green と Green Save で2027年度に年間10億円の事業規模を目指す



研究開発：CO₂削減技術開発

Green SAVE

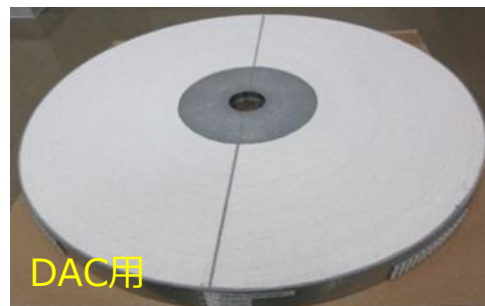
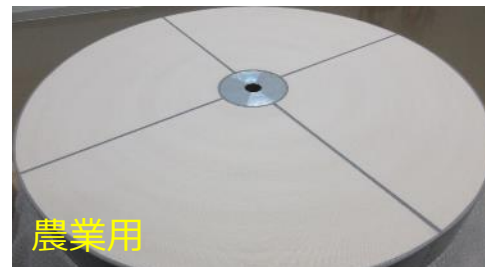
全熱交換ロータで秋～春のクローズドハウス※を実現
※閉め切った状態のハウスのこと



中計2024-2026期間中の取り組み

- いちごハウスで実証試験
- 特許登録1件、特許出願3件

CO₂吸着ロータの開発



中計2024-2026期間中の取り組み

- 大学との共同研究
- 低エネルギーでのCO₂の吸着・脱着
- 耐久性の向上
- DAC※や空調用途への展開

※Direct Air Capture、直接空気回収技術

キャッシュ・アロケーション（2024-2026）

- ・ 将来の成長に向けての生産能力や生産性の向上、事業領域拡大のための投資を優先
- ・ 株主還元は配当を基本とし、利益成長と資本効率の状況に合わせて自社株買いを実施

資金の源泉と使途計画（2024～2026年度の3年間）

営業キャッシュフロー
130億円

投資キャッシュフロー
60億円～

生産能力増強

- ・ 国内除湿ローター工場の新設
（追加費用として約5億円）

生産性の向上

- ・ 中国の板金工場の新設（約20億円）
- ・ 定常的な生産性向上（20億円）

事業領域拡大の投資

- ・ エンジニアリング事業拡大等のための投資
（提携やM&Aなど含む、10億円～）

株主還元
60億円～

- 配当性向：
40%以上を目安とする
- 自社株買い：
 - ・ 資本効率や業績、資金状況を勘案し、機動的に実施
 - ・ 本中期経営計画期間中に20億円を予定

営業CF
130億円

成長投資
60億円～

株主還元
60億円～